

# 高血圧緊急症

前回、高血圧の治療についてお話ししました。高血圧の治療のためには、普段の生活でのコントロールが大切で、血圧は急激に下げるよりも、数カ月単位で少しずつ下げることが必要だとお伝えしましたが、中には例外もあります。

今回は、緊急で血圧を下げなくてはならない場合についてお話しします。



過することが多く、血圧が高い状態に体が慣れていくので、急いで血圧を下げる必要はありません。緊急で血圧を下げなくてはいけないのは、特に一定の症状がある方です。症状や臓器障害により、高血圧緊急症にはさまざまな病名がつけられます。高血圧緊急症のうち、重篤なものをいくつかご紹介いたします。

## 1 高血圧性脳症

血圧が高い状態が続くと、脳血流が異常に増え、脳浮腫が起こり、頭蓋内圧が高くなります。典型的な症状とし



## 2 急性左心不全

血圧が著しく高くなると、心臓の左心室という部屋の圧が上昇し、肺がうっ血してしまいます。これを肺水腫といい、呼吸が苦しくなり横になれない、ピンク色の痰が出る、などの症状が出ます。肺水腫をとまぬ急性左心不全の場合、緊急の降圧や、人工呼吸器、利尿剤投与などの治療が必要となります。



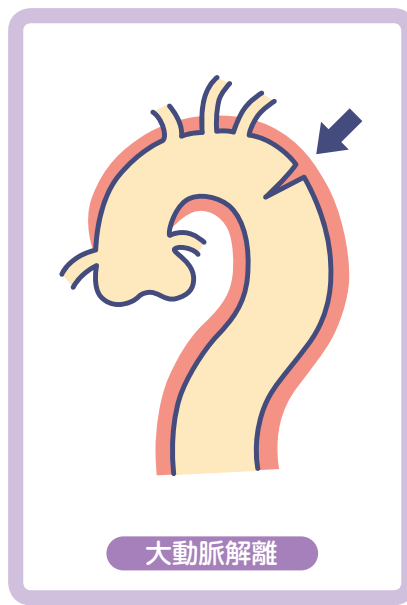
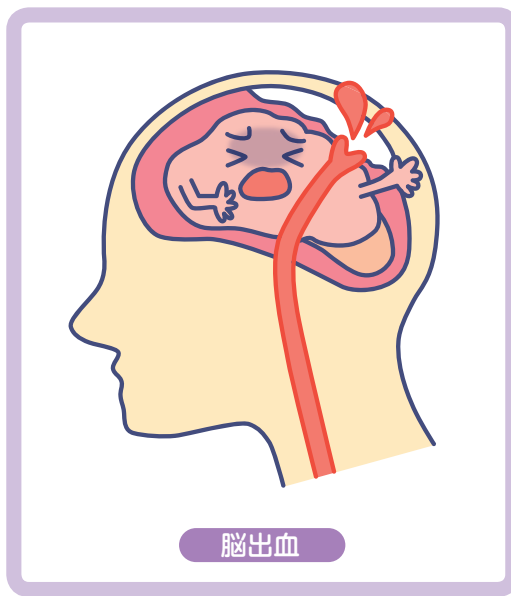
ては、意識障害、頭痛、悪心嘔吐、けいれんなどがあり、速やかな降圧が必要となります。

## 3 脳出血

血圧が高い状態が続く、脳に栄養を送っている血管が破れ、そこから脳の中へ出血するものを脳出血といいます。手足の麻痺やしびれ・言葉がうまく話せない・物が二重に見えるなどの症状があり、緊急で降圧をする必要があります。出血量が多い場合には手術となる可能性もあります。

## 4 急性大動脈解離

高血圧が長く続くと、心臓につながる大血管に瘤ができることがあります。その状態から、ある日突然大動脈の壁に亀裂ができ、壁に隙間ができ、解離ができる場所によって症状は異なり、手足の血管につながる動脈に起こると、手足の激しい痛みを自覚したり、腸に栄養を送る血管に起こると、便秘や腹痛などの症状が出ます。降圧はもちろんのこと、緊急手術となる場合もあり、致命的な病気です。



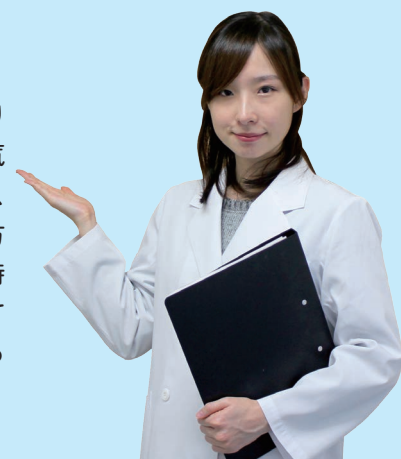
血圧が高いからといって、これらの病気にすぐ直結するわけではありませんが、このような重篤で致命的な病気にならないためにも、普段からの血圧コントロールがとても大切です。

### 教えて! 河合先生

**Q** 普段、血圧は安定しているけれど、ときどきとても高いことがある。少し頭痛がするような気もするし……。そんな時に薬は飲まなくていいの?

**A**

今回ご説明したとおり、はっきりした症状がなければ大きな心配はありませんし、普段の血圧が落ち着いていれば、たまに高血圧であっても気にする必要はありません。しかし、普段の血圧が安定しているからこそ、まれに高血圧となった時に、頭が重い感じがする、などの症状が出た方がいます。その場合はかかりつけ医に相談し、必要ならば血圧が高い時にだけ追加して飲むための薬をもらうようにしましょう。自分で持っている薬を追加して飲む方もいますが、急激に血圧が下がり低血圧になってしまう方もいるため、必ず相談するようにしましょう。



★次回は「普段の生活でできる高血圧にならないための予防法その1」をお話しします。



順天堂医院  
河合 夕紀

プロフィール

埼玉県出身  
獨協医科大学医学部卒  
順天堂医院初期臨床研修修了  
順天堂医院 循環器内科  
日本内科学会認定医